

フォトニクス研究者とエンジニアの職業意識

パトリア・パンチャック

Laser Focus World誌の最近の調査により、仕事への満足度が高く、将来に対して楽観的であることが明らかに。

自分の仕事やキャリアについて同僚がどのように考えているかに興味があるフォトニクス専門家や、高度な資格を持つエンジニアを維持または引きつけようとしている人々は、最近のLaser Focus World誌の調査結果に興味を持つことになるだろう。昨年の秋に実施されたこの結果に給与、仕事の満足度、将来の見通しなど、フォトニクス研究およびエンジニアリング専門家の仕事と生活の詳細を垣間見ることができる。

回答者の仕事に対する全体的な満足度は高く、44%が現在の職に非常に満足している、またはとても満足していると回答している。満足している人を

加えると、結果は80%になる。これらの結果は、前年に同じ仕事を続けている回答者の88.5%と同様の結果となっている。

満足度が高く、同じ仕事を続ける傾向があるにもかかわらず、この結果から、多くの回答者が依然として他の機会を追求することに前向きであることがうかがえる。過去1年以内に転職した人の44%は別な機会を求めて会社を辞めたが、これは同じ雇用主での実績に基づく昇進の理由で転職した20%の2倍以上である。

さらに、15.6%が積極的に新しい職を探していると回答しており、30%近くが、積極的に新しい職を探している

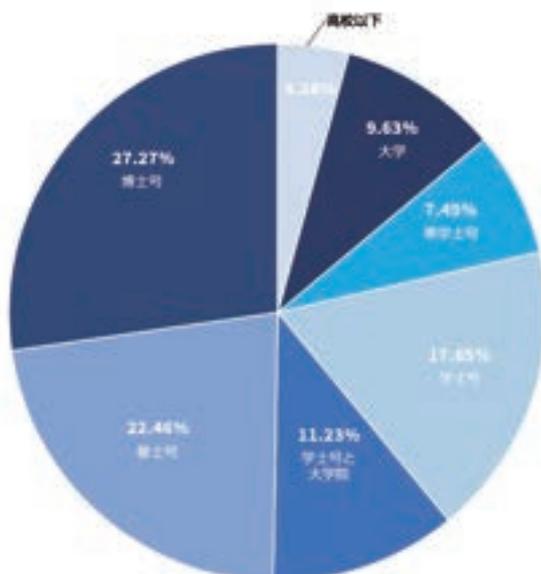
わけではないが、興味深い機会について目にしたり耳にしたりすればフォローするつもりだと答えている。それでも、回答者の3分の1は、近い将来に転職することは想像できないと答えている。

また、65%以上はエンジニアリングの専門職を辞めることを考えたことはない。考えたことのある35%のうち、ほとんど(47%)が「何か違うことを試してみる」という理由を挙げている。エンジニアを引き留めようとする企業にとって危険信号は、最もよく挙げられる2番目から4番目の理由に当てはまる。2位は「もっとお金を稼ぐため」で46%、次いで「燃え尽き症候群」(42%)、「もっと充実した、または満足のいくことをする」(40%)となっている。かなりの割合が、より多くの自由/自由時間(38%)、ストレスの少ないもの(37.1%)、または昇進のより良いチャンス(30%)を求めた。この質問では、回答者は該当する理由をすべて選択した。

退職を検討している人々の落ち着いたのなさは、経験豊富な専門家が変化を求めていることによるのか、好奇心や挑戦を求めた傾向によるものなのかは不明だ。しかし、回答者の58%は50歳以上で、実に3分の1が60歳以上である。さらに、回答者の最大のグループである16.1%がエンジニアリング業界で40年以上働いており、58.5%が20年から40年以上エンジニアリング業界で働いている。

回答者が仕事の満足度に影響を与えている他の要因は、回答者が仕事やエンジニアリングの専門職を辞め

あなたの最終学歴は何か



ることを検討する理由を解明する可能性がある。加重平均による1位の回答は「潜在的な設計ソリューションの調査」で、僅差で「自分の仕事に対して受け取る報酬」と「会社の文化と価値観」が続く。4位は「新製品の設計に伴う課題」である。

将来の世代へのアドバイス

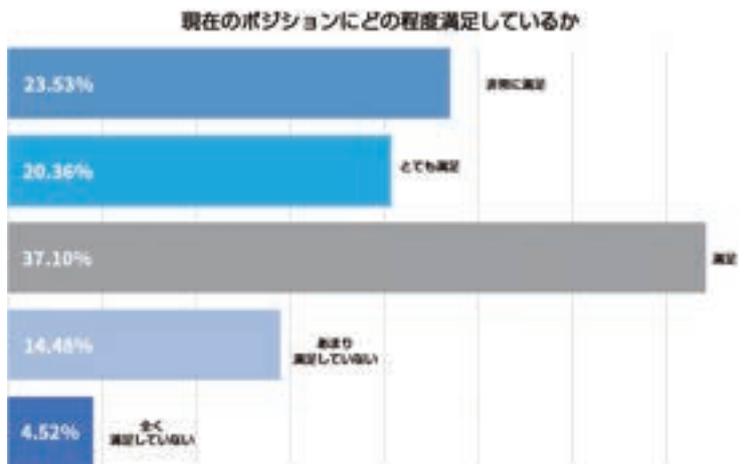
次世代のエンジニアに対する回答者のアドバイスは、エンジニアリングの将来について、圧倒的に明るいものであり、90.3%が、職業を選択しようとしている若者のキャリアパスとして、エンジニアリングを推奨すると回答し、68%以上がエンジニアリングの昇給の可能性は、5年前と同様に、今日も期待が持てると信じていると回答している。

キャリアパスとしてエンジニアリングを推奨する回答者は、エンジニアリングのキャリアの多様性と安定性を強調し、その仕事が「興味深く、創造的で、比較的高く評価されている」と指摘した。

ある回答者は「今もなお楽しくてやりがいのあるキャリアであり、幅広い性格タイプに適しており、さまざまな分岐路を探索することができる」とコメントした。「興味深い仕事、キャリアアップの機会、管理職や教育者への道」と書いた人もいた。

それでも、「粘り強さを持ち、創作を楽しむことができれば成功できるが、自分の目標が何かを理解し、勤勉でなければならない」と警告する人もいる。さらに、エンジニアリングを探索する若者がその職業への適性を示し、「継続的なスキル向上」に取り組む必要性を挙げている。

今後5年間の給与上昇の可能性について楽観的な人々は、継続的なテクノロジーの進歩とイノベーションにより、



訓練を受け経験豊富なエンジニアリング専門家の需要が高まっているため、チャンスが増えていると述べている。人工知能、ロボット工学、自動化の使用傾向について言及した人もいる。ある人は「エンジニアリングは常に必要とされている」と率直に述べている。現在の人材が「高齢に達する」一方で、エンジニアの需要が供給を上回っていると指摘する人もいた。

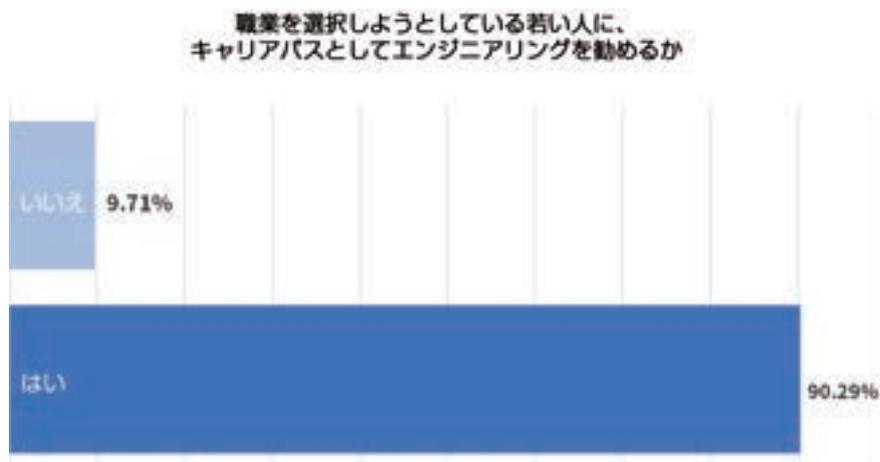
ほとんど給与が上がる

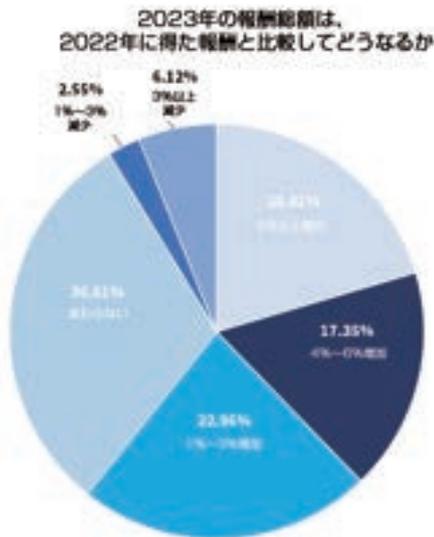
エンジニアの給与が5年間で増加するという楽観的な見方は、おそらく、ほとんどの回答者の最近の経験に影響

されていると思われる。60%以上が給与やボーナスを含む報酬総額が2022年と比べて2023年に増加したと回答し、回答者の約20%が6%以上の増加、17.4%が4%～6%の増加、23%が1%～3%の増加だった。

しかし、残り30.6%は昇給なしで、6%強は報酬が3%以上減少した。

回答者に、会社が適切な報酬を提供していると感じているかと尋ねたところ、60%が「はい」と回答した。不当な報酬を受けていると感じている人のうち、50%以上が、公正な報酬水準を達成するには、11%～25%の昇給が必要だと感じている。





予算編成と採用

調査実施中、回答者の企業における雇用と予算編成の状況はまちまちだった。回答者の4分の1以上(25.7%)が雇用の増加を報告したが、30.6%は新規職の採用が保留され、29.7%がエンジニアリング部門の予算削減または人員削減や一時解雇に直面し、5%近くが一時帰休を行ったと回答した。(この質問の回答者は、該当するものすべて選択できる)。

回答者のほぼ65%が、自社が今年も昨年と同様に従業員の定着に注力していると考えている。

来年のエンジニア雇用の見通しはほぼ明るい。38%が自社ではエンジニアの雇用数を増やす計画があると答えているが、半数以上(52%)が現在の水準を維持する計画で、規模を縮小する計画を立てているのは10.3%のみである。

エンジニア不足

しかし、エンジニアの仕事を増やそうとしている企業は逆風に遭遇する可能性がある。回答者のほぼ69%は、エンジニアが不足していると考えている。また、回答者の67%以上が、組織がオープンなエンジニアリング職に

適した候補者を見つけるのが難しいと回答している。フォトリクス(48.1%)、システムエンジニアリング(40%)、およびソフトウェア(31%)は、資格のある候補者を見つけるのが難しいエンジニアリング専門分野の上位3つである。

エンジニアを新規雇用するという課題があるにも関わらず、半数以上(55.8%)の組織が、エンジニアの新規雇用にインセンティブとして契約ボーナスを提供したことがないと答えている。20%弱は提供しているが、7.4%は会社が最近インセンティブを追加したと回答し、さらに3.6%が最近その慣行を復活させた。

人口動態

回答者のほぼ全員(90%弱)は大小の企業出身で、最大集団は年間売上高100億ドル以上(10.9%)、または100万ドル未満(14.7%)の企業であった。同様に、企業が雇用する従業員の数も多岐にわたる。回答者のほとんどは従業員数が1000人を超える企業(31.2%)、または50人以下の企業(34.4%)に勤務していた。

回答はフォトリクス界のさまざまな部門から寄せられたが、設計および開発エンジニアが32%で最大のグループを構成し、続いて経営管理/運用管理者が15%近く、エンジニアリング管理者が9%強だった。現在の設計プロジェクトを最もよく表しているものは何かとの質問に対し、16.8%以上が研究開発と回答し、10.5%が産業用制御システムおよび機器(ロボット工学を含む)を挙げた。

回答者のグループは十分な教育を受けており、回答者の60%以上が少なくとも学士号と大学院の学位を取得している。27.3%近くが博士号を取得し、22.5%が修士号を取得している。

エンジニアリングのキャリアパスと昇給の可能性は
現在も5年前と同じように期待できるか

